



「災害訓練:実践編」を開催して

災害対策委員会 7S 病棟主任 酒井 由希子



当院では、災害発生時に患者さん、ご家族、当院職員、そして地域の方々の生命・生活を守ることができるように災害対策に取り組んでおります。

2021年3月に災害初動対応机上シミュレーションを行いました。今回は、看護師・事務職員等延べ45名が参加し、「災害訓練:実践編」を開催しました。日中に地震が発生した想定で、病棟での初動対応として CSCA

(Command and Control: 指揮と調整、Safety: 安全確保、Communication: 情報収集・伝達、Assessment: 評価)を実践しました。新しく取り組んだ点



は、コロナ禍を配慮して、患者役などを配置せず、QRコードを活用した災害現場の再現です。病室内の被災状況画像(例えば、患者状況、病室内のロッカーが倒れている、窓が割れて飛び散っているなど)をQRコード化し病室前に掲示しました。QRコードをスマートフォンで読みとり被災状況の情報収集を行いました。日常と異なる環境下での情報伝達の難しさ、状況を判断して行動する大切さを学びました。

災害時には、地域のために存在する病院として、迅速かつ適切にアクションを起こせるよう災害訓練を継続してまいります。

骨粗鬆症性脆弱性骨折による再骨折を予防しよう

骨粗鬆症・骨折リエゾンサービスチーム 6S 病棟副主任 伊村 真央



【リスクと評価】

2022年4月より当院で骨折リエゾンサービス(FLS: Fracture Liaison Service)の活動を開始することとなりました。骨粗鬆症性脆弱性骨折を生じると二次骨折を起こしてしまう危険性が高くなります。二次骨折を生じないようにするためには、骨折の治療と同時に骨折の原因である骨粗鬆症の治療を行うことが重要であるといわれています。FLS クリニカルスタンダード及び骨粗鬆症の予防と治療ガイドラインに沿った適切な評価を行い、骨粗鬆症と診断された患者さんに対して薬物療法を開始しております。

【食事と運動】

二次骨折予防は確実な治療薬の継続だけでなく、バランスのよい食事を摂ることや適度な運動も大切になってきます。多職種と協働し入院時より投薬の確認

や副作用の早期発見、食事量・食事内容の確認、積極的な離床によるADL拡大を実施しています。退院時にはご家族にも退院指導を行い、外来看護師との連携を図っております。

【かかりつけ医との連携】

骨粗鬆症治療薬は中断すると薬の効果がなくなります。継続した治療を行うためには、患者さんの理解やご家族の協力だけでなく、転院先の病院やかかりつけ医との連携も必須となってきます。リハビリテーション医療を担う病棟や外来において継続的に骨粗鬆症に関する評価及び治療等を実施した場合、二次性骨折予防継続管理料Ⅱ・Ⅲを算定することが可能となりました。患者さんが安心して継続した治療が行えるよう地域との関わりを強化していきたいと考えております。